

令和6年度 学校評価票

本年度の重点目標

北海道北見緑陵高等学校

- (1) 育成すべき8つの資質・能力を踏まえ、教科等横断的な視点で教育内容を組み立て、教育課程を実施する。
- (2) 各教科の役割を明確にしながら、授業改善を推進し、学習の基盤となる3つの資質・能力(言語能力、情報活用力、問題発見・解決能力)を育成する
- (3) 生徒理解の深化を基盤とした生徒指導を推進し、生徒の心理的安全性を確保しながら、自己指導能力を育成する
- (4) 保護者等と連携した進路指導を推進するとともに、キャリア教育を充実させ、自己実現を図る生徒を育成する
- (5) 働き方改革を推進し、教育の質向上と持続可能な学校づくりを実現する。

【内部評価】本校教職員による評価については、各々A～Dで示した。
A：十分である B：おおむね十分である C：やや不十分である
D：不十分である

学校関係者評価
A:適切
B:ほぼ適切
C:やや不適切
D:不適切

評価対象	評価項目		内 部 評 価		学校関係者評価
			達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ
教育目標 経営方針	1	本校の教育目標は、生徒や保護者・地域の方々の実態を踏まえたものか。	B	1 評議委員会、アンケート等を通して、実態を把握し、改善を図る。	B
	2	学校の教育目標や経営方針を具現化するという意識のもと日常の教育活動が行われているか。	B	2 教育目標や経営方針を細分化し、教職員で目標を共有する。	
	3	生徒・保護者・地域の期待に応え、夢を叶えることができる活力と魅力にあふれる学校であるか。	B	3 学校評価やアンケート等で意識を把握し、教育活動の改善へ生かす。	
	4	伝統を継承しつつ改革を目指す、「地域とともにある学校」であるか（地域との連携・協働）	B	4 近隣の小中学校、地域の組織との連携を深める。	
ご意見・ご要望					
学習指導	5	生徒の学習習慣の定着に向けて、家庭学習と授業を関連づけるなど、工夫して取り組むことができたか。	B	5 学習習慣を定着させるための授業の改善、ICTの活用を進める。	B
	6	授業評価の結果を分析し、授業改善に向けた研修を行うことができたか。	B	6 適切な分析結果の提供と授業改善に向けた組織的な取組の充実を図る。	
	7	学ぶ意欲を理解させ、興味関心を引き出す授業づくりを進めることで、生徒の学習意欲を喚起することができたか。	B	7 授業改善へ向け、組織的に研修を行う。ICTの活用を進める。	
	8	観点別学習評価に対する理解を深め、適切な学習評価を実施することができたか。	B	8 観点別評価の方法について他校の実践など情報収集し、校内研修で理解を深める。	
ご意見・ご要望					
生徒指導	9	学校祭等の生徒会行事について、生徒が主体的に企画・立案し、参加することができたか。	B	9 生徒会行事のみならず課題等の自主的な話し合い活動を進める。	B
	10	教育相談を必要とする生徒への対応方法を検討・確立できたか。	B	10 教育相談・特別支援委員会の一層の充実と全職員への情報の共有化を推進する。	
	11	好ましい人間関係の構築に向けて、生徒が自らの役割を果たし相互に協力する場面や機会を設定できたか。	B	11 普段の生活や話し合い活動を通して自らの考えを表現し、意見を交わす場面を意図的に設定する。	
	12	生徒の多様な学びの場としての望ましい部活動指導を行うことができたか。	B	12 勝敗だけでなく、自己肯定感や責任感、連帯感の涵養などを重視する。	
ご意見・ご要望					
進路指導	13	進路講話の活用やインターンシップの取組等を通じて、キャリア教育の充実を図れたか。	B	13 今後も地域や専門家の協力を得て、負担軽減しながら取り組む。	B
	14	進路調査、進路相談が卒業後の将来を展望する支援・指導になっていたか。	B	14 三年間を見通した計画を立て、卒業後の進路へ向けて継続的に調査・相談を行う。	
	15	卒業後の進路決定に関して、保護者との連携が十分に行われていたか。	B	15 三者面談の実施と家庭との連携の強化を進める。保護者向け進路説明会を実施する。	
	16	講習受講者の志望校、難関校の合格状況等の情報を職員で共有化できたか。	B	16 進路指導部主導で情報の共有化を行う。	
ご意見・ご要望					
健康安全指導	17	防災訓練や性教育講話を通して生命尊重の意識を高めたか。	B	17 SOSの出し方教育に取り組む。継続的に訓練や講話を行う。	B
	18	避難訓練や一日防災学校等を通じて、生徒や教職員の防災意識を高めることができたか。	B	18 外部の機関と連携し、一日防災学校の充実を図る。	
	19	保健だよりの発行や電話連絡等により、家庭や関係機関等との連携が十分行われていたか	B	19 関係機関との連携を強化する。	
ご意見・ご要望					

評価分野	評価項目		内 部 評 価		学校関係者評価
			達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ
信頼される学校づくり	20	生徒・保護者への緊急連絡や中学生・卒業生への情報提供など、学校HPの更新と発信は十分であったか。	B	20 SNSなどの有効的な活用を検討していく。	B
	21	地域や保護者の意見を傾聴し、要望や依頼に適切に対応したか。	B	21 学校評価や普段寄せられる意見を傾聴し、適切に要望や依頼に応えていく。	
	22	地域社会や小中学校との連携・協働は十分であったか。	B	22 異校種交流の活性化を推進していく。	
	23	前年度の学校評価の結果を踏まえた教育活動の工夫・改善がなされたか。	B	23 適切な学校評価項目の設定と学校評価に基づいた年次・分掌経営を図る。	
ご意見・ご要望					
組織運営	24	教職員の意志が疎通し、風通しの良い職場となっていたか。	B	24 会議による報告のみならず、ICTを活用した情報の共有化を行う。	B
	25	働き方改革の視点から、業務の効率化に取り組むことができたか。	C	25 働き方改革コアチームを中心とした働き方改革の推進を目指す。	
	26	職員会議は、発言しやすく創造的な意見調整の機能を果たしていたか。	B	26 前例踏襲によらない立案・実施を心がける。	
	27	学校課題、生徒情報、危機管理の情報を共有し、管理職からの適切な指導・助言が十分行われていたか。	B	27 正確な情報の把握に努め、迅速な情報の共有化を目指す。	
ご意見・ご要望					
教職員の資質向上	28	新たな研修制度の趣旨を踏まえ、積極的に研修に参加できたか、または自ら研修を行ったか。	B	28 校長との対話を通して、自らの必要な研修内容を把握し、積極的に研修に参加する。	A
	29	服務規律の保持に関する情報提供が適宜行われ、事故防止や不祥事の未然防止に努めることができたか。	A	29 新聞記事などの情報提供を通じて、事故防止や不祥事の未然防止に努める。	
ご意見・ご要望					
いじめの問題	30	いじめの未然防止に向けた取組は十分であったか。	B	30 いじめ防止の方針を生徒に説明し、生徒の意識を高める。	B
	31	いじめの早期発見(アンケート・日常的な観察)の取組は十分であったか。	B	31 「いじめ確認の日」「アンケート」を継続的に行い、今後も早期発見に努める。	
	32	いじめの発生に対して、組織的に迅速な対応を取ることができたか。	B	32 いじめ防止対策組織による組織的な取組を行う。	
ご意見・ご要望					